

国際会議参加報告（年会優秀発表賞受賞者助成）

2019年9月15日～20日にウィーン（オーストリア）で20th International Symposium on Health Related Water Microbiologyが開催され、平成28年度から始まった年会優秀発表賞受賞者国際会議発表助成（クリタ賞国際会議発表助成）を受け、鳥居将太郎氏（東京大学）が参加され研究発表を行いましたので、会議の報告を書かせていただきました。

参加報告：20th International Symposium on Health Related Water Microbiology

東京大学 鳥居 将太郎

この度は年会優秀発表賞受賞者国際会議発表助成（クリタ賞国際会議発表助成）を賜り、誠にありがとうございました。選考に関わられた関係者の方々に深く御礼を申し上げます。

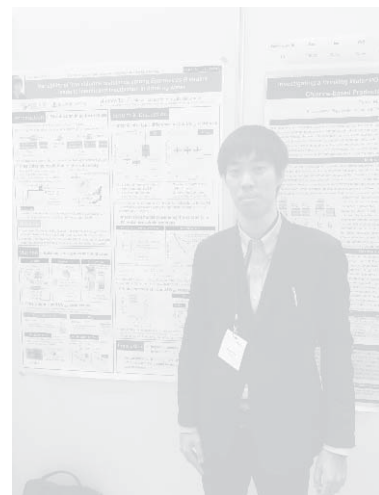
2019年9月15日から20日に行われた20th International Symposium on Health Related Water Microbiologyに参加いたしました。当会議はIWAのHealth Related Water Microbiologyのスペシャリストグループが2年おきに開催しているもので、健康関連微生物の水中の挙動、処理などが主なテーマです。今回はオーストリアのUniversity of Viennaで行われ、121件の口頭発表と70件のポスター発表がありました。本会議の参加者層の特徴として欧米からの参加者が多いことが挙げられます。学会中は天候に恵まれ、会場内は熱気に包まれ活発な議論が交わされました。

本会議では、Mark Sobsey, Charles Haas, Charles Gerbaをはじめ、水中健康関連微生物の礎を築いた著名な研究者の方々がそろい踏みで、最先端の議論が交わされていました。私自身、ポスター発表ではこれらの方々をはじめ、論文でお名前を頻りに目にする研究者の方と議論を交わすことができ、今後の研究成果の方向性やそのまとめ方について考える上で大変役に立ちました。

私の研究は、変異速度が極めて高いウイルスの遺伝的な多様性が消毒の感受性の違いに与える影響を評価したものです。ウイルスの飲料水中における許容濃度は1粒子/90000 L以下で、水処理工程を経て極めて低いレベルに低減する必要があります。凝集沈殿、砂ろ過にもなうウイルス除去能は低いために、日本の水処理においては、事実上その低減を塩素消毒に依存している状況にあります。私たちは、エンテロウイルスの野生株間の消毒感受性の違いを評価し、その影響を分布幅として算入し

た際に、不活化の推定値が異なることについて発表いたしました。また、その分布幅の大きさを消毒方法の違いにおいても比較し、紫外線に比べて、遊離塩素で分布幅が大きくなる傾向が見取れることについても発表いたしました。

本研究内容は、東京大学・片山浩之教授、富山県衛生研究所・板持雅恵先生との共同で行ってきた成果になります。諸先生方のご尽力なしでは完遂するものではありませんでした。ここに重ねて御礼を申し上げます。最後に20th International Symposium on Health Related Water Microbiologyへの参加にあたり、日本水環境学会より年会優秀発表賞受賞者国際会議発表助成（クリタ賞国際会議発表助成）をいただきましたことを重ねて心より厚く感謝申し上げます。



発表ポスターの様子